

世界マスターズ柔道大会参戦記

株式会社リスク・マネージャー
代表取締役 西久保 博信

世界マスターズ柔道協会は「マスターズ」発祥の地、カナダに誕生し、1999年WELLAND（カナダ）にて第一回目の大会が開かれ、以後2000年SYDNEY（オーストラリア）、2001年PHOENIX（米国）、2002年LONDON DERRY（N.アイルランド）、2003年TOKYO（日本）、2004年VIENNA（オーストリア）、2006年TOURS（フランス）、2007年SANPAULO（ブラジル）、2008年BRUSSELS（ベルギー）、2009年ATLANTA（米国）、2010年MONTREAL（カナダ）と開催された。

一方、IJF（国際柔道連盟）は2009年5月、ドイツのSINDEL FINGENで第一回VETERAN JUDO WORLD CHAMPIONSHIPSを、2010年BUDAPEST（ハンガリー）で第二回GRAND MASTERS JUDO WORLD CHAMPIONSHIPSを開催した。したがって2009年と2010年はカナダの「世界マスターズ柔道協会」と「IJF」主催のふたつのマスターズ柔道大会が開催されたのである。

第3回 世界グランドマスターズ柔道大会

「IJF国際柔道連盟」に統合されて最初の大会は、2011年6月14・15日、第3回「世界形選手権大会」に続き、6月16～19日、ドイツ・フランクフルトにて開催された。過去4年連続世界マスターズ柔道大会参戦を振り返ってみると

- 2008年 第10回 ベルギー（ブリュセル）大会
世界マスターズ初参戦の3年前は身長163cm、体重83.5kg、個人戦M8（65～69歳）－81kg以下に出場、初戦で敗れたが敗者復活戦を勝ち上がり3位（銅メダル）。
- 2009年 第11回 アメリカ（アトランタ）大会
神奈川の三橋英夫 七段とペアを組み「形コンテスト」講道館護身術、五つの形にエントリーするもメダルに届かず、個人戦M8（65～69歳）、前年の－81kg以下クラスには身長180cmクラスがぞろぞろいたので、体重を10kg近く落として－73kg以下に出場、優勝（金メダル）。
- 2010年 IJF 第2回 GRAND MASTERS JUDO WORLD CHAMPIONSHIPS ハンガリー（ブタペスト）大会は、第2回「世界形選手権大会」（5/25・26）に続いて「マスターズ柔道大会」（5/26～30）が行われた。せっかくブタペストまで行くのだからと栃木の内藤純 七段とペアを組み、講道館護身術にオープン参加（自費負担）、26組中17位と健闘するも予選敗退となった。続く個人戦は5月27日、M8（65～69歳）－73kg以下に出場、前日の講道館護身術演技中、離れた状態「顎突き」を仕掛けた際、右腕を極められたまま前方に投げられ、受け損ねて左肩を強打、その影響で左腕が肩までしか上がらない状態で試合、結果は無念の7

位、5月30日、60歳以上3人制（先鋒73kg以下、中堅90kg以下、大将無差別）の団体戦に出場、先鋒を栃木の内藤 七段と交替で出場（試合に出ないとメダルを貰えない）、ロシアに敗れたが第2位（銀メダル）を獲得。

- 2010年8月 第12回 世界マスターズ柔道大会はカナダに本部を置く世界マスターズ柔道協会主催の最後の大会となり、カナダ（モントリオール）で開催された。「形コンテスト」講道館護身術で三橋・西久保組3位（銅メダル）獲得後、「五つの形」に挑戦、演技終了後3人の審判員が上げた得点の合計点が、それまでのすべての演技者得点を上回っており、そのあとの演技者も我々の得点に及ばなかったから金メダルを信じていた。ところが表彰式で我々のペアのコールはなかった。表彰式終了後大会本部に抗議したところ、記録では我々のペアは4位だという。ペアを組んだ2人以外に3人以上の日本人が目撃した合計点は幻の金メダルと消えてしまった。個人戦は揮わず6位で終戦。第3回 世界グランドマスターズ柔道大会は2011年6月14・15日、第3回「世界形選手権大会」にオープン参加（自費参加）するため、6月12日から現地入りした内藤純 七段、杉原尚 七段を加え、日本マスターズ柔道協会選手団14名、応援団の奥様方5名、現地参加の4名（男性3名、女性1名）が、参加国49カ国、参加選手数1,038名（男性891名、女性147名）の一翼を担った。現地（フランクフルト）の新聞はグランドマスターズ柔道大会を大きく取り上げ、14日に現地入りした日本マスターズ選手団19名を大歓迎、加えて6月14・15日の第3回「世界形選手権大会」に5種目とも日本選手が優勝したことと相まって柔道熱は一段と高まっていた。6月16日、M6～M11の個人試合の火蓋を切ったのはM6－81kg以下の大塚俊彦 六段（56歳）、次いでM7－81kg以下上木保夫 七段（60歳）。両選手とも勝てば3位の敗者復活最終戦で敗れ5位。M8－73kg以下西久保博信 七段（68歳）、初戦敗退。エントリー多数のため敗者復活戦にも回れず。M8－81kg以下三橋英夫 七段（67歳、昨年のモントリオール大会の金メダリスト）、一回戦のフランス選手の払い腰に肩を強打、敗者復活戦欠場、7位。M8－90kg以下大上敏幸 七段（68歳）、一回戦、敗者復活戦共に敗れ5位。M9－73kg以下内藤純 七段（70歳）、優勝はさすが。M9－90kg以下栗本忠弘 八段（72歳）、ドイツ選手とエントリー2名、2位。M9－66kg以下中島忠 三段（71歳）、ドイツ選手、M10－66kg以下山本健夫 三段（75歳）はカテゴリー統合で3人リーグ、山本選手2位、中島選手3位。M9－60kg以下、鬼柳一字



六段（71歳）、M10－60kg以下杉原尚 七段（75歳）、M10－60kg以下岡田庫二郎 八段（77歳）はカテゴリー統合で日本人3人のリーグ戦となったが、鬼柳選手が優勝、岡田選手が2位、杉原選手が3位。今回最年長のM11－73kg以下高橋勲十 八段（80歳）は単独エントリーとなり、1カテゴリー下のM10－73kg以下のドイツ選手と二度対戦、二度とも勝って堂々の優勝。以上が個人戦出場者の成績であるが、昨年のハンガリー・ブタペスト大会に比べ出場者の増加はもとより、技術レベルが著しく上がっており日本人は高齢（70歳）以上の軽量級しか勝てなくなる恐れがある。過去3回のオリンピックでも、73kg以下、81kg以下、90kg以下は金メダルゼロが続いている。日本の若い柔道家よ！ 自費で海外に渡り武者修行を積み、ヨーロッパ柔道のレベルは高いぞ！

ドイツの印象

フランクフルト、ハイデルベルク、ローテンブルク、ミュンヘンを旅したが、さすがユーロのリーダーとしての誇りとプライドを持ち顔が明るい。町を走る車はどれもドイツ製であり、日本車は滅多に見かけなかった。60歳代と思われる日本人ガイド（女性）が遠くドイツに嫁として来たとき、「日本は我々と同じアメリカを相手に戦った同盟国であると大変親切にもらった」という話。「トラ・トラ・トラ」が映画館で封切られた時、日本の戦闘機・雷撃機等が真珠湾上空に差し掛かった時、観客が立ち上がっ

て拍手した」話。我々がフランクフルト滞在期間に女子のワールドカップ次リーグが始まっていたが、なでしこジャパンの優勝で更に日本人好きのドイツ人が増えたことでしょう。やがてフランスを追い越してドイツが世界一の柔道人口を擁する国になることを予測する一人である。

（おわり）

■西久保博信（にしくほ・ひろのぶ）

昭和18年生まれ。明治大学（文学、経済、政治専攻）卒。自衛隊レンジャー部隊出身。総合警備保障入社。帝国警備保障取締役、リスク・マネージャー設立、ダライ・ラマ14世警護要員教育（延べ10回、於インド）、北京オリンピック聖火リレー（長野市）の警備解説で延べ9回TV出演、富士ゼロックス防災コンサルタント、日本セキュリティスクール専任講師・顧問、全日本セキュリティ・サポート協会理事長、ライフラインシステム普及協会副会長、地域防災研究所相談役、柔道七段、セキュリティ・危機管理教育実績 延べ93,091人、出張教育研修 延べ3,035回



株式会社リスク・マネージャー
代表取締役 西久保 博信

お問合せ：www.riskmanager-jp.comから